

①対象材料の増加(14項目 → 17項目)

※追加された材料を赤字下線で記載しております。

建設発生土、浚渫土砂、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥、鉄鋼スラグ（高炉スラグ、製鋼スラグ、二次産品）、石炭灰（フライアッシュ、クリンカーアッシュ、二次産品）、非鉄金属スラグ（銅スラグ、フェロニッケルスラグ、亜鉛スラグ）、貝殻、エコスラグ

②用途の細分化(12項目 → 17項目)

※追加された用途を赤字下線で記載しております。

コンクリート細骨材、コンクリート粗骨材、混和材、バーティカルドレーン及びサンドマット材、サンドコンパクションパイル材、深層混合処理固化材、捨石、中詰材、被覆石・根固・消波ブロック、裏込材、裏埋材、盛土材・覆土材・載荷盛土材、路庄盛土材、路盤材、As舗装骨材、藻場・浅場・干潟造成・覆砂材・人工砂浜等、その他

③評価内容の見直し(全138項目中72項目で評価が向上)

これまでの利用実績等を用いて評価を見直した結果、多くの項目で評価が向上しました。